

# 進路だより

令和5年度 第4号  
下関南総合支援学校 進路部  
令和5年9月8日

今回は、夏休み中に行われた夏季校内進路研修会についてご紹介します。

## 〈夏季校内進路研修会〉



8月2日に、教職員を対象とした進路研修会を実施しました。社会福祉法人内日福祉会、びれっじの相談支援専門員である沖村文子さんに「～卒後の暮らしをイメージする～制度と福祉サービスの理解」と題してご講演していただきました。大きく分けて、卒後を支える福祉サービスとこどもの福祉サービスの2つについてお話していただきました。沖村さん自身が経験された多様なエピソードを交えてお話され、わかりやすく充実した内容となっていました。

お話の最後に、生徒を支える保護者・教員の心得として、「豊かな卒後を目指して」以下の3点が挙げられていました。

- 支援・制度を知り、その制度を使いながらどんな生活をするのかイメージを具体的に描くこと
- 学校にいる間に、学校では何を学び、家庭では何を育てる必要があるかをはっきりさせて協力し合うこと
- 地域の関係機関とつながっておくこと

また、生徒に対しては「生きるちから=将来必要な力」として、以下の3点が挙げられていました。

- ・ 折り合いをつける力  
(まあいいか？ふーんそういうもの？じゃあ仕方ないね...)
- ・ 全体で考えられる力  
(自分のこと、目の前のことばかり見がちだけど、振り返って全体を見る)
- ・ 自分はどうかと考える力  
(人と比べない、自分にできることを目標にする、人や物のせいにしない)

また、現場実習で大切なこととして、

- ・ 保護者も現場実習先を訪問し、卒後のイメージを具体的に描くこと
- ・ 家庭から職場へ送り出す朝の生活や職場から家庭に帰ってからの余暇の

過ごし方の練習を家庭で実施すること  
の2点を挙げられ、学校卒業後は生活パターンが大きく変わるため、まずは  
生活の安定が重要であるとお話されていました。

講演の途中では、アイスブレイクを挟み、人による受け取り方の違いについて  
お話されており、「みんな違うからいい」という言葉が印象に残りました。人  
それぞれ多様な価値観をもち、いろいろな教員がいるからこそ多様な子ども  
たちに対応できる。そんな学校でありたいと思いました。

進路部